

資料編

1. 小郡市内文化遺産再発見事業の概要

(1) 事業の目的

小郡市教育委員会では、平成 24 年度から「小郡市内文化遺産再発見事業」を開始しました。これは、今後住民と行政の協働によって進めるまちづくりに、地域の“たから”を活かしたいという考えから生まれた事業です。自分たちの足元には何があるのか、また、普段目にしている当たり前の風景にどんな意味があるのかを実感し活用すれば、それぞれ特徴のある地域社会を作り上げることも可能です。

市内には、江戸時代の街道や宿場町の雰囲気を残した場所も多く、たくさんの古建築や石造物があります。また、目に見えない古くからの風習や信仰なども含めて、まさに文化遺産の宝庫と呼べます。現在はまだ眠っている市内各所の文化遺産を新発見・再発見し、それらを単体としてではなく体系的に結び付け、地域づくりの柱とすること。市民や NPO 法人などの団体と行政が一体となって、市内のどこにいても歴史と文化の薫るまちづくりを進め、来訪者だけでなく、そこに住む自らが誇りを持って日常を過ごすことができる、そのような小郡市をつくるのが目標です。

(2) 事業の経過と組織

1) 事業に至る経過

小郡市内文化遺産再発見事業は、平成 24 年度から平成 26 年度までの 3 年間は小郡市教育委員会が主体となって実施しました。まず平成 24 年度は福岡県緊急雇用創出事業（震災等緊急雇用対応事業）を活用し、平成 25・26 年度は文化庁補助金「文化遺産を活かした地域活性化事業」を活用しました。

平成 27・28 年度も同様に「文化遺産を活かした地域活性化事業」で実施しましたが、事業主体は伝統文化実行委員会へと変更し、その構成団体である特定非営利活動法人小郡市の歴史を守る会が中心となって調査等を行いました。平成 29 年度は、文化庁補助金「文化遺産総合活用推進事業」を活用しました。なお、小郡市教育委員会としては、日常的な情報共有及び調査指導を行い、連携して事業を進めました。

2) 事業の経過

事業の経過は以下のとおりです。悉皆調査は、市内を中学校区の 5 つに分け、毎年校区毎に取り組みました。

年次	年度	事業主体	事業内容	対象校区
1	24	小郡市教育委員会	悉皆調査（1 年目） 講演会開催 報告書・リーフ発行	小郡中校区
2	25	〃	悉皆調査（2 年目） 講演会開催 報告書・リーフ発行	宝城中校区

年次	年度	事業主体	事業内容	対象校区
3	26	〃	悉皆調査（3年目） ハイキング開催 報告書・リーフ発行	立石中校区
4	27	伝統文化実行委員会 （教育委員会は指導・協力）	悉皆調査（4年目） 講演会・ハイキング開催 報告書・リーフ発行	三国中校区
5	28	〃	悉皆調査（5年目） 講演会・ハイキング開催 報告書・リーフ発行	大原中校区
6	29	〃	追加調査 ハイキング開催 総合報告書発行	全域

表 調査の経過

日にち	内容
平成 24 年 4 月 2 日	平成 24 年度事業開始。
4 月 6 日	松崎区の調査を開始。現地悉皆調査がスタートする。
4 月 25 日	九州湯布院民芸村で旧三原家の調査を実施。
5 月 9 日	小郡校区区長会に出席し協力を依頼、快諾される。
7 月 30 日	小郡校区悉皆調査開始。駅前区から着手する。
9 月 13 日	日吉神社の「こくぞう祭」の取材。
10 月 28 日	松崎区文化祭で「松崎遺産再発見」パネル展実施。
平成 25 年 1 月 31 日	調査カード作りがほぼ終了。報告書作成の本格化。
3 月 31 日	報告書を刊行し、平成 24 年度事業が終了する。
4 月 1 日	平成 25 年度事業開始。
6 月 15・19 日	味坂・御原校区区長会に出席し協力を依頼、快諾される。
7 月 2 日	味坂校区（上西区）から現地悉皆調査開始。
7 月 7 日	下八坂の獅子舞の取材。
9 月 18 日	御原校区（稲吉区）の調査に着手。
9 月 23 日	二タ鎌太郎のダブリュウの取材。
10 月 30 日	古飯地区の現地学習会の実施。講師は東原一馬氏。
平成 26 年 1 月 13 日	御原校区左義長の取材。
3 月 29 日	文化遺産事業中間報告講演会を実施。
3 月 31 日	報告書を刊行し、平成 25 年度事業が終了する。
4 月 1 日	平成 26 年度事業開始。各地域の桜の風景を撮影。
4 月 28 日	立石校区区長会に出席し協力を依頼、快諾される。
5 月 27 日	上岩田区から現地悉皆調査開始。
7 月 6 日	松崎の獅子追いの取材。
9 月 9 日	博物館実習生とともに現地聞き取り調査等を実施。

日にち	内 容
10月17日	乙隈の早馬祭の取材。
10月19日	上岩田注連ねり（人形じめ）の取材。
10月31日	吹上の堂籠りの取材。
12月9日	花立山の現地調査を開始。以降、19日まで計3回実施。
平成27年3月31日	報告書を刊行し、平成26年度事業が終了する。
4月1日	平成27年度事業開始。
6月22日	三国中校区区長会に出席し、協力を依頼、快諾される。
6月28日	三国校区（津古区）の八龍神社夏祈禱から現地悉皆調査開始。
7月10日	八龍神社假殿遷座祭の取材。
10月18日	のぞみが丘小学校区地域文化祭の取材。
11月8日	隼鷹神社早馬作りの取材。
11月15日	隼鷹神社早馬祭の取材。
11月30日	三沢日吉神社堂籠りの取材。
12月8日	三沢ハサコノ宮・立石さんの調査。
平成28年1月10日	のぞみが丘小学校区どんど焼きの取材。
1月30日	企画展『小郡道中膝栗毛～市内参勤交代道ノ巻～』の開始。
2月7日	『稲次因幡正誠をたずねる街道ツアー』の実施。
3月31日	報告書を刊行し、平成27年度事業が終了する。
4月1日	平成28年度事業開始。
5月16日	東野校区区長会に出席し協力を依頼、快諾される。
5月27日	大原校区区長会に出席し協力を依頼、快諾される。
6月14日	大原神社・大原区・中学前区から現地悉皆調査開始。
7月10日	西島竈門神社ヨドの取材。
7月24日	大原神社夏祭り子ども神輿巡行の取材。
7月31日	御勢大霊石神社夏祭りの取材。
8月2日	玉垂御子神社ヨドの取材。
8月20日	中央1区夏祭りの取材。
9月15日	大板井1区名月さんの取材。
11月15日	大板井1区大日さんの取材。
11月30日	玉垂御子神社堂籠りの取材。
11月30日	大板井1区若宮さんの取材。
12月24日	緑区餅つき大会の取材。
平成29年2月6日	御勢大霊石神社粥占い神事の取材。
2月11日	『文化遺産を活かしたまちづくり』講演会開催。
2月12日	黒岩稲荷神社初午祭の取材。
3月31日	報告書を刊行し、平成28年度事業が終了する。
4月1日	平成29年度事業開始。
4月15日	御勢大霊石神社にて「石祭り」の神事取材。
7月25日	大板井区 大般若取材。

日にち	内 容
7月28日～8月17日	『松崎宿関連』パネル展開催。
9月13日	大保粟島神社鳥居除幕式取材。
10月14日	乙隈早馬作り取材。
10月17日	乙隈早馬祭取材。
10月29日	『野田宇太郎生誕祭』パネル展開催。
12月2日	『文化遺産を活かしたまちづくり』講演会開催。
平成30年1月17日	如意輪寺 火渡り取材。
3月31日	報告書を刊行し、平成29年度事業が終了する。

5年間に渡る現地悉皆調査は、市内区長会の全面的な協力の下で実施しました。特に、年度ごとの区長会の代表者には事業着手の段階からご配慮いただきました。ここに歴代区長会の皆さんにあらためてお礼を申し上げますとともに、各地域でお話を聞かせていただいた市民の皆様にも深く感謝いたします。

3) 関係組織

〔小郡市教育委員会〕（平成24～29年度）

教 育 長 清武 輝
 教 育 部 長 吉浦 大志博（平成24年度）
 佐藤 秀行（平成25～28年度）
 山下 博文（平成29年度）
 文化財課長 片岡 宏二（～平成28年度）
 柏原 孝俊（平成29年度）
 文化財係長 柏原 孝俊（～平成28年度）
 杉本 岳史（平成29年度）
 技 師 杉本 岳史（～平成28年度）
 臨 時 職 員 井上 千代美
 時里 久美子
 宮崎 美穂子
 岡藤 成子（平成24～26年度）
 平峰 正満（平成24～26年度）
 山下 順平（平成24～25年度）
 松岡 裕之（平成25～26年度）
 金子 裕子（平成25～26年度）
 野見山 憲悟（平成25～26年度）
 浅川 真（平成25年度）
 稲村 麻未（平成25年度）

〔伝統文化実行委員会〕（平成27～29年度）

顧 問 丸林 俊市（小郡市古賀区こども囲碁教室）
 委 員 長 磯部 富士夫（特定非営利活動法人小郡市の歴史を守る会）
 副 委 員 長 吉野 慶子（小郡市伝統文化和装礼法親子教室）
 委 員 肥山 吉嗣（小郡祇園太鼓保存育成会）

杉山 幸夫（小郡市古賀区こども囲碁教室）（平成 27～28 年度）
監 事 広重 正弘（福岡県小郡歩みの会）
豊福 千恵子（小郡祇園太鼓保存育成会）

〔特定非営利活動法人 小郡市の歴史を守る会〕（平成 27～29 年度）

理 事 長 磯部 富士夫
副 理 事 長 松尾 幸雄（平成 27 年度）
中野 勝美（平成 27 年度）
肥山 政義（平成 28～29 年度）
野田 理（平成 28～29 年度）
理 事（財 務） 朽網 孝
理 事（法 務） 深山 裕司
理 事（企 画 広 報） 岩佐 隆治
監 事 岡本 政隆（平成 27 年度）
松尾 知明（平成 27 年度）
井上 美俊（平成 28～29 年度）
松尾 富太（平成 28～29 年度）
事 務 局 長 稗田 實生（平成 27 年度）
野瀬 賢一（平成 28～29 年度）
調 査 補 助 員 浅川 真
整 理 作 業 員 副島 ひろか
金子 裕子
田代 博男（平成 28～29 年度）
吉村 俊明（平成 28～29 年度）

※調査指導等（敬称略・順不同・所属は当時）

土田 充義（鹿児島大学名誉教授）、田中 英資（福岡女学院大学准教授）、
高山 美佳・福田 忠昭・池田 千枝（LOCAL&DESIGN 株式会社）、
中島 恒次郎（太宰府市役所）、重松 敏彦（財団法人 古都大宰府保存協会）、
森 幸治郎・中野 勝美（小郡市郷土史研究会）

（3）調査の方法と内容

1）調査前準備と現地調査

現地調査の前には、調査漏れを防ぎ、さらに事前の予備知識を得るために、過去の調査記録や文献などから、できるだけ情報を拾い上げました。これらは地図上に反映させ、ミーティングや悉皆調査の際に、基本資料として利用しました。

事前調査の対象とした主な過去の記録や文献には、以下のようなものがあります。

『小郡市史』全巻
『久留米市史』全巻
『小郡市の美術工芸と建築』
『小郡市の自然』
『小郡市内伝承調査事業報告書』全 3 冊

『ふるさと小郡のあゆみ』及び改訂版全2冊
「久留米藩社方開基」
「久留米藩寺院開基」
『福岡縣神社誌』上・中・下巻
『筑後国史-筑後将士軍談-』上・中・下巻
『秋月街道』報告書
『三井川北四國道中案内』
『筑後河北誌』
『筑後松崎史』

まずこれらを分担して調べ、拾い上げた事象や情報を、地区毎にデータ化します。なお、神社境内の石造物やその他の記念碑については、『小郡市史』編纂時に調査された記録があり、それをまず文字データ化し、現地での銘の内容確認等に利用しました。

現地での悉皆調査では、特に住民への聞き取りに重点を置きました。事前に区長会に了解をいただき、回覧によって地域に調査実施の周知を行い、調査の際は飛び込みで聞き取りを行います。過去の調査記録や文献に記載のない物件については、所有者を尋ね、由来・世話人などを聞き取りしました。

2) 調査後の作業

現地調査後は、撮影した大量の写真、現地での記録、聞き取り調査の内容を整理します。中でも聞き取り調査は、調査者によって内容が異なる場合があります。また、石造物の銘を起すことも重要かつ難しい作業です。今後の基本資料となりますので、慎重な取り組みを要しました。

各文化遺産について一定のまとめが終了すると、それを Microsoft Access へ入力してデータベースとして管理します。なお、Access におけるテーブルの作成等も全て自前で行い、小郡市オリジナルのデータベースが完成しました。

なお、最終的な保存データとしては、以下のものなどがあります。今後はこれらを更新しつつ、最新のデータベースとして保つことが重要です。

- ・アクセスデータベース
- ・各種写真
- ・聞き取り調査票
- ・石造物の銘文

(4) まとめ

この事業を通して、約 3,800 件の文化遺産をデータベース登録しました。これらはかけがえのない“たから”であるとともに、まちづくりの重要な要素でもあります。各地域の将来像を描く際に、ぜひとも活用を期待します。

2. 小郡市と福岡女学院大学の観光まちづくり協定の概要

(1) はじめに

小郡市と福岡女学院大学は、平成 30 年度以来「小郡市観光まちづくり調査研究事業に関する協定書」を締結して事業を展開しています。この協定は、小郡市と福岡女学院大学の人的・知的資源等の交流と活用を図りつつ、福岡女学院大学が小郡市の観光まちづくりに関する提案を行い、市の観光まちづくりの推進に寄与することを目的とするものです。ここでは、初年度の平成 30 年度の事業内容について、その概要をまとめます。

(2) 協定書締結に至る経過と協定書の内容

小郡市と福岡女学院大学が協定書を締結するきっかけとなったのは、長年にわたる市と大学の深いつながりによります。

平成 2 年（1990）、福岡女学院大学小郡キャンパスが小郡市東野の地に開校し、平成 14 年（2002）に現在の日佐キャンパスに統合されるまでの間、多くの学生が市内で勉学に励みました。また、両者は文化財の面においても、強いつながりを作ってきました。古くから多くの大学の先生方に小郡市の文化財保護審議会の委員に就任いただき、市の文化財保護の在り方や進め方について、様々なご指導をいただいております。その成果は、数多くの指定文化財の存在からも明らかです。

協定書は、全 5 条からなります。第 1 条では、「本協定は、甲（小郡市）と乙（福岡女学院大学）の人的・知的資源等の交流と活用を図り、相互に協力することで、地域の発展と社会貢献に寄与する人材の育成を目的とする。」と明確に目的が謳われており、第 3 条の事業概要では、実施事業として以下の 4 件を挙げています。

- ①小郡市内の視察に関すること。
- ②調査研究事業に関する各種講座の実施に関すること。
- ③「観光まちづくり」に関するプレゼンテーション及び提案書の発表会の開催に関すること。
- ④その他、目的達成のために必要な取組に関すること。

大学は、ここに挙げられた内容に関する提案書を市に提出し、市の「新たな観光施策の推進に寄与する。」ことを目的とします。

(3) 取り組みの概要

平成 30 年度の取り組みは、現小郡市埋蔵文化財調査センター所長で、福岡女学院大学人文学部非常勤講師である片岡宏二氏の担当授業「観光文化論 B（観光まちづくり論）」の中で行われました。授業は、4 月 17 日より 7 月 17 日まで全 15 回実施され、その目標は小郡市の観光まちづくりの実情を学ぶことに設定されました。

●出前授業

授業の一環で、5 月 1 日に教育委員会職員が外部講師として大学に赴き、小郡市の概要を説明しました。続く現地見学のための基礎知識の習得という位置付けでもあり、多くの学生の出席がありました。

●現地見学

5月3日(祝)、学生約40名が小郡市内の現地見学を行いました。対象は、小郡官衙遺跡、七夕神社、野田宇太郎文学資料館、平田家住宅、旅籠油屋、如意輪寺、埋蔵文化財調査センターです。学生はマイクロバス2台に分乗し、担当者の解説を聞きながら各所を巡りました。

視察後のアンケートでは、気に入った場所として、①如意輪寺、②七夕神社、③平田家住宅の順でした。また、工夫を加えれば人気が出そうな場所としては、七夕神社という声が圧倒的多数を占めました。小郡市の特徴は自然と歴史だという指摘もあり、今後の観光まちづくりの方向性を示唆するものでもありました。



●協定の締結・授業での発表

7月10日、福岡女学院大学で協定の調印式が行われました。大学側の出席者は阿久戸光晴学長、伊藤文一副学長、日野資成人文学部現代文化学科長、同現代文化学科田中英資准教授、浮田英彦キャリア開発教育センター長などです。式では、協定書の概要説明、阿久戸学長・加地市長による調印の後、両者によって今後の抱負などが述べられました。

その後、関係者は教室に移動し、片岡講師の授業に出席しました。授業の中では、現地視察時に感じたこと及び、その後に学生が調べたこと、考えたことなどの発表があり、加地市長を始めとする小郡市側と意見交換を行いました。ここでは、学生一人一人が取り組みを自分のものとして消化できており、力強い提案や意見を多く聞くことができたことが印象的です。



●シンポジウム

学生の学習成果を小郡市民に直接お知らせするため、12月1日に阿久戸光晴学長にもご出席いただいた上で、埋蔵文化財調査センターで観光まちづくりシンポジウムを開催しました。

当日は第1部として、阿久戸学長が「幸福を実感できる地域づくりのために」というテーマで基調講演を行われました。学長は、自身のこれまでの豊富な経験を基に、「小郡市の将来図を展望して」という内容で、住民の幸福実感がカギとなること、小郡市でなくてはできないことを考えることの重要性などをご提案いただきました。

第2部はシンポジウム形式です。片岡氏をコーディネーターとして、パネラーは大学側が阿久戸学長、福岡女学院大学人文学部現代文化学科2年生3名(井戸川未来さん、藤田佳奈子さ



ん、濱地早紀さん)、市側が加地市長、文化財課担当者が登壇しました。主な内容は、学生が小郡市の文化遺産(七夕神社、平田家住宅、如意輪寺、旅籠油屋など)に関して感じたこと及び今後の方策の提案で、市外の若者から見たシビアかつ新鮮な提案がありました。

表 主な学生の意見

スポット	意見
七夕神社	<ul style="list-style-type: none"> ・神社の顔が見えない。 ・「恋人の聖地」をうまく活用できていない。 ・神社のキャラクターを作ったらどうか。 ・まつりの際の屋台を増やし、学生や子どもが参加して盛り上げては。 ・おみくじの自動販売機を置いてはどうか。 ・巫女さんを常駐させては。
如意輪寺	<ul style="list-style-type: none"> ・インスタグラムがうまく利用されている。(かえる寺で検索すると、10,000枚近くの投稿) ・「よそもの」「わかもの」をうまく取り込んでいる。 ・学生を取り込むともっと面白くなる。
平田家住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・畳の香りと庭園の立派さが印象的。 ・「日本」を感じた。
旅籠油屋	<ul style="list-style-type: none"> ・胞衣壺が印象的。 ・江戸時代という歴史を感じた。 ・保存運動の話聞き、地元の熱意を感じた。

こちらがある程度想定していた、いわゆる「インスタ映え」で知られるインスタグラムを始めとするSNSに関する意見はもちろん、逆に伝統を非常に魅力的に捉えていることが分かります。また、学生が参加することが活性化につながるという声が学生自身から多く聞かれ、まちづくりを主体的に捉えることができる積極性に驚かされました。当然、全ての意見が各文化遺産に合致する訳ではありませんが、今後の事業展開を考える上で、非常に面白い示唆が多くあったと感じました。

●提案書の提出

平成31年3月11日、福岡女学院大学から小郡市へ「小郡市観光まちづくり調査研究事業提案書」が提出されました。内容は、具体的な学生の意見のまとめと総括です。

総括では、この事業がもたらす大学側と小郡市側それぞれの効果と課題がまとめられています。まず大学側の効果として、学生が観光まちづくりという考え方を、実地体験を基に知ることができたことが挙げられています。また、学生が市長や行政職員と意見交換する機会は、今後に向けて貴重な機会であったことも指摘されています。しかし、これらは一つの授業の中での取り組みであり、今後どのように継続した取り組みに結び付けるかが課題と言えます。

次に小郡市側の効果として、まず大学がどのような観光まちづくりに関する講義を実施しているか知ることができたことがあります。またその取り組みを通して、地域住民も観光まちづくりの概念を知ることができました。これを地域の課題解決へどのように結び付けるか、継続した取り組みが必要と言えるでしょう。

(4) まとめ

文化振興・地域振興のために行政ができることは非常に限られています。もちろん様々なつながり、出会いの機会を作ることは可能ですが、主役はあくまで地域の住民です。

少子高齢化がさらに進むこれからの社会の中、観光まちづくりは地域活性化の方策としても期待されています。一方で、観光まちづくりで目に見える効果を上げるまでには、5年から10年は必要とも言われます。長期的な視点に立って取り組むことが重要です。

最後に、提案書のまとめ部分を抜粋し、事業の総括とします。

従来も「無意識」に地域の歴史・文化を守ってきた多くの地域や人々がいた。この「無意識」を「意識的」な活動に変えることができれば、その活動に向かうべき目標が見出され、個別の力を結集し、さらに大きな小郡市全体の大きな力にすることができる。

その理論的裏付けが、この観光まちづくりの考え方である。自分たちが無意識に守り・伝え・行ってきたことが、実は地域づくりに大きな力を発揮しているものであり、さらにその考え方を地域づくりに生かそうという発展的な考えを生み出すのが観光まちづくりであるということに気づいてもらう大変よい機会であり、それを継続することが、市にとっての今後の課題となる。